

九州ブロック会議（平成27年7月23日～24日・福岡県：ANA クラウンプラザホテル福岡）

参加者は約140名。はじめに主催者あいさつとして九州ブロックを代表し中村哲九州ブロック長、続いて、小林光俊全専各連会長があいさつを述べた。また開催県から岩本仁福岡県専修学校各種学校協会会長があいさつを述べ、さらに来賓として福岡県の小川洋知事（代理）が祝辞を述べた後、来賓及び九州各県会長を紹介。

総会では、田所徹夫福岡県副会長が議長に選出され、①平成26年度事業報告及び決算報告、②宣言文採択の両議案が上程され、全ての議案が全会一致で承認された。

引き続き中央情勢報告として、文部科学省専修学校教育振興室の白鳥綱重室長が配布資料をもとに、平成27年度専修学校関係予算及び事業の内容、職業実践専門課程の認定効果と課題、「新たな高等教育機関の制度化」等について解説。自己評価・学校関係者評価の充実は専修学校等全体の質の保証・向上になり、積極的な情報提供・公開を求めると述べた。全専各連事務局からは活動状況報告が行われ、冒頭でTCE財団各種事業（教科「職業とキャリア」、検定試験、保険事業）の紹介、「新たな高等教育機関の制度化」等の説明、地方創生への対応として「地方創生枠」の奨学金にかかる要望について協力を求め、総会が終了した。

休憩後、研修会では、白鳥室長から「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化に向けて」と題して、新たな高等教育機関の基本的な方向性、制度化に向けた個別論点、今後の見通しを中心に説明がおこなわれた。

次に職業実践専門課程認定校から「職業実践専門課程の制度周知について」のテーマで社会的評価と教育の質向上に寄与した成果事例と課題について発表がおこなわれた。発表者は福岡県・中村調理製菓専門学校の森山能孝氏、専門学校西鉄国際ビジネスカレッジの椎葉小夜子氏。

最後に白鳥室長から、平成26年度認定を振り返り、各取り組みが学校経営の方針・方法の変化、組織の活性化が図られた認定効果を説明し、まとめがおこなわれた。

懇親会には赤池まさあき参議院議員が駆けつけ、赤池議員からは「専修学校・各種学校が今後とも発展するよう活動していく」、とのあいさつが行われた。

翌日、視察研修が行われ全ての日程を終了した。

なお、採択された大会宣言決議文は次のとおりである。

【大会宣言】

専修学校制度がスタートして、今年は40年の節目を迎えることとなりました。奇しくもこの年に、実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関について、いよいよ制度化のための具体的な議論が始まり、さらにその後に最終段階の制度改正が待ち受けています。

この40年間、大学や短期大学などと役割分担をしながら、専修学校各種学校では産業界との連携を軸として、より弾力的な教育内容を採用入れ、社会の様々な分野の第一線で活躍する人材を輩出してきました。日本を支えてきたモノづくりの技術や職人ワザの継承に大きく貢献してきたと自負できるものと考えています。

制度的には脆弱な立場にありながら、専修学校各種学校関係者の並々ならぬ奮闘により、社会的使命を十分果たしてきたところですが、今後は社会や産業の急激な変化にも耐えられるより質の高い職業人を養成し、技術的にも人格的にも人望を集める人材づくりに切磋琢磨していく所存です。

我々専修学校各種学校がこれまで以上に職業実践教育の質を上げるたゆまない努力を続けると同時に、この取組が社会に広く認知されるための制度的な後ろ盾としての新たな高等教育機関の制度化を注視していきます。

本日、この九州ブロック大会において、下記事項を行政当局及び全国専修学校各種学校総連合会に対して強く要望するとともに、併せて九州ブロック内の各会員校が自ら課題解決に取り組み、社会的責務を果たしていくことをここに宣言いたします。

記

1 国、県等の行政機関への要望

- (1) 職業実践的な教育を行う新たな高等教育機関制度化の早期実現を求める。
- (2) 「職業実践専門課程」を通じた専修学校の質保障・向上の取組へのより一層の支援を求める。
- (3) 意欲と能力のある専門学校生が経済的理由により就学を断念することがないように、授業料減免や奨学金返還の一部公的負担等の修学支援の充実を求める。

2 全国専修学校各種学校総連合会への要望

全専各連に地方の意見を反映させるため、全専各連役員、委員会委員等に九州ブロック内の人材の登用を引き続き積極的に行うことを求める。

3 九州ブロック内の各会員校の社会的責務の遂行に向けて

- (1) 各学校が自己点検及び学校評価に真摯に取り組み、教育内容及び教職員の資質向上を図るとともに、より魅力ある実践的な職業教育を実施する。
- (2) 実践的な職業教育機関として、若年者や離職者の雇用対策の一環を担うとともに社会人の学び直しとして広く活用されるよう地域社会に積極的に貢献する。
- (3) アジアに近接した九州ブロックの地理的特性を活かし、国際社会で活躍し、我が国の将来に貢献できる視点を持った人材の育成と先見性に富む学校経営に心がける。